

## SR その他 (インドと他国のRCTの差)

### 文献

Cramer H, et al : Are Indian yoga trials more likely to be positive than those from other countries? A systematic review of randomized controlled trials. *Contemp Clin Trials* 2015 Mar; 41: 269-272.

PubMed ID:25705015

### 1. 背景

欧米やインドで多数のヨガのRCTが実施され、様々な健康状態に対するヨガの有用性が報告されている。特にインドで実施されるヨガの臨床試験は他国よりも有効な結果が生まれ易いのではないかと、また代替補完医療(CAM)専門学術誌には良い結果がでた試験の方が公開されやすいのではないかと議論がある。

### 2. 目的

ヨガRCTの結果の傾向が実施国(インドとそれ以外の国)や雑誌の種類(CAM専門学術誌とそれ以外)によってどれくらい違うのか検討する。

### 3. 検索法

Medline/PubMed、Scopus、IndMED、the Cochrane Libraryのデータベースで2014年2月12日までの文献をヨガとRCTの条件で検索。Journal of Yoga and Physical Therapy, the International Scientific Yoga Journal SENSEは手作業で目次により検索。検索は筆者2名による。

### 4. 文献選択基準

ヨガの効果を検討したRCT、クロスオーバー試験、クラスターランダム化試験であること。参加者範囲、ヨガの種類、実習頻度や期間、評価項目、言語による制限はしない。対照群がヨガ以外の介入か何もしないもの。

除外：重複出版のもの、違うヨガの介入同士を対照群(ヨガ以外)なしで比較してあるもの。

### 5. データ収集・解析

PRISMAガイドラインに基づき収集。1.インドと他国のRCTの結果比較 2.CAM専門学術誌とその他の学術誌との結果比較、その相関の程度をカイ二乗検定とオッズ比によって解析。要約に疾患や症状に対して効果あり、または対照群と比べ優れた効果が認められたという結論が記述されたものを「有益」、どちらも言えないものを「不確定」、対照群と比べ劣っていたものは「効果なし」とする。

### 6. 主な結果

・306件の論文を検討。

【国】23カ国で実施されたが、インドとアメリカが圧倒的。インド131件、アメリカ86件、イギリス18件、オーストラリア10件、イラン10件、ドイツ8件、カナダ6件、日本5件、その他の国32件。

【発行学術誌】CAM専門学術誌84件、その他222件。

【ヨガの有益性】

・306件中、277件(91%)は有益、17件(6%)は不確定、12件(4%)は効果なしという結論だった。

・インドで実施されたRCT131件の内130件(99%)で有益と報告された。

インド以外の国では175件の内147件(84%)で有益と報告された。

(オッズ比=24.8; 95% CI = 3.3, 184.5;  $p < 0.001$ )

・CAM専門学術誌で発行された84件の内74件(92%)で有益と報告された。

CAM専門学術誌以外では222件の内200件(90%)で有益と報告された。

(オッズ比 = 1.2; 95% CI = 0.5, 2.9;  $p < 0.828$ )

### 7. レビュアーの結論

検討されたRCTの9割がヨガの有用性を示していた。学術誌の種類は結果の傾向に影響しないが、インドで実施されるRCTは他地域に比べ25倍の確率で有益な結果になるようだ。これはインドではヨガのスピリチュアルな伝統が根づいていること、欧米のRCTに比べ介入の実習量が多いこと、経験豊富な指導者に因ると考える。また不適切な統計手法や報告バイアスも否めない。インドと他地域の結果になぜ差が起こるのか解明する研究が更に望まれる。またインドでのヨガのRCTの結果を他国の患者に適応解釈するには注意が必要である。

スタッフ 陽子 岡 孝和 2016年8月31日